



平成22年11月1日

各位

会社名 株式会社 東京放送ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 財津 敬三
(コード：9401、東証第1部)
問合せ先 経理局経理部長 徳井 邦夫
(TEL. 03-3746-1111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成22年8月5日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成23年3月期の連結業績予想値の修正

(1) 第2四半期累計連結業績予想数値の修正 (平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	164,500	△200	300	△5,100	△26 84
今回修正予想 (B)	166,500	1,800	2,700	△2,700	△14 21
増減額 (B - A)	2,000	2,000	2,400	2,400	
増減率 (%)	1.2%	—	800.0%	—	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	175,709	2,933	3,462	△90	△0 48

(2) 通期連結業績予想数値の修正 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	342,500	8,900	9,100	600	3 16
今回修正予想 (B)	342,500	8,900	9,100	1,200	6 32
増減額 (B - A)	—	—	—	600	
増減率 (%)	—	—	—	100.0%	
(ご参考) 前期実績 (平成22年3月期)	351,262	3,343	3,902	△2,313	△12 18

2. 修正の理由

(1) 第2四半期連結累計期間業績予想

当社グループの主力事業である放送事業におきましては、当第2四半期連結累計期間におけるテレビスポット広告の出稿量が前年同期を上回るなど、回復傾向がみられます。このような環境のもと、放送収入、映像文化事業の収入が前回予想を上回る水準で推移しております。また、経費の効率的な運用などコストコントロールの効果が想定していたよりも早期に発揮され営業利益、経常利益は前回の見込みを上回る見通しとなりました。これに加え、投資有価証券売却益の特別利益も発生したため四半期純損失は上記のように、前回予想よりも改善する見通しです。

(2) 通期連結業績予想

下期の放送事業におきましては、引き続きスポット市況の回復は続いているものの、年明け以降の広告市況に不透明感が残るため、通期の売上高、営業利益、経常利益は、前回予想と同額と見込んでおります。当期純利益は、第2四半期連結累計期間の投資有価証券売却益の影響で、前回予想を上回る見通しとなりました。

また、四半期会計期間末における投資有価証券の減損処理につきましては、洗替え方式を採用しているため、各期末日の時価により特別損失の額が変動いたしますが、第2四半期連結累計期間で計上いたしました額と同額と仮定しております。

なお、配当予想につきましては、平成22年5月13日に公表した予想に変更はございません。

(注) 上記の業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上